

リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議 次 第

（ 日 時 平成 28 年 9 月 2 日 (金) 13:00～14:30
場 所 飯田合同庁舎 講堂 ）

1 開 会

2 あいさつ

3 報告事項

飯田市におけるリニア駅周辺整備の検討状況について

4 協議事項

(1) 第 1 回有識者部会の報告及び論点整理について

(2) 意見交換

5 そ の 他

6 閉 会

リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議
出席者名簿

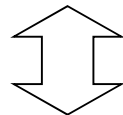
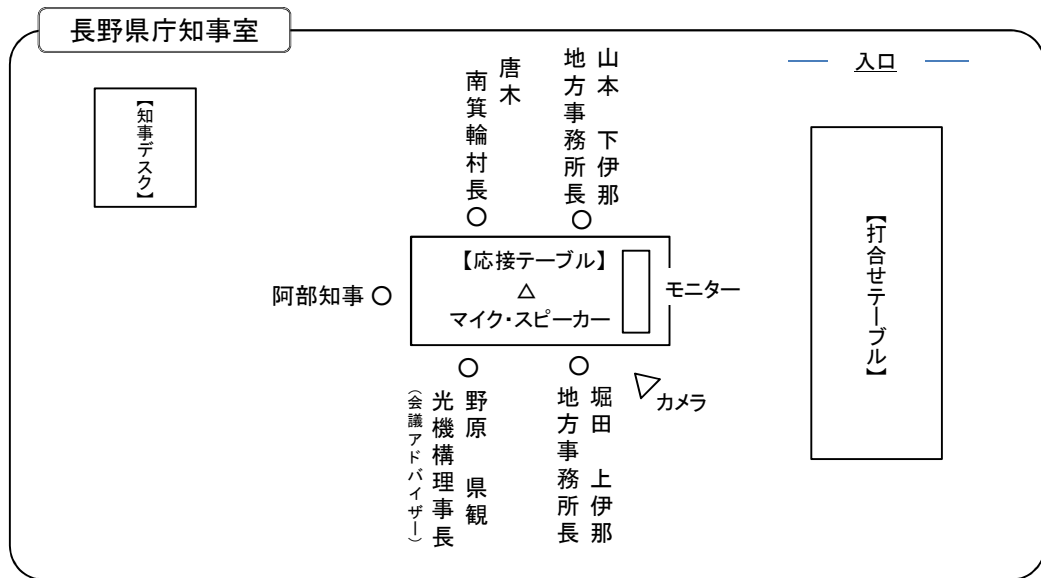
(敬称略)

職 名	氏 名
知 事 (座長)	阿部 守一
飯田市長	牧野 光朗
伊那市長	白鳥 孝
駒ヶ根市長	杉本 幸治
南信州広域連合 (泰阜村長)	松島 貞治
上伊那広域連合 (南箕輪村長)	唐木 一直
上伊那地方事務所長	堀田 文雄
下伊那地方事務所長	山本 智章
伊那建設事務所長	坂田 浩一
飯田建設事務所長	西元 宏任
リニア整備推進局長	水間 武樹

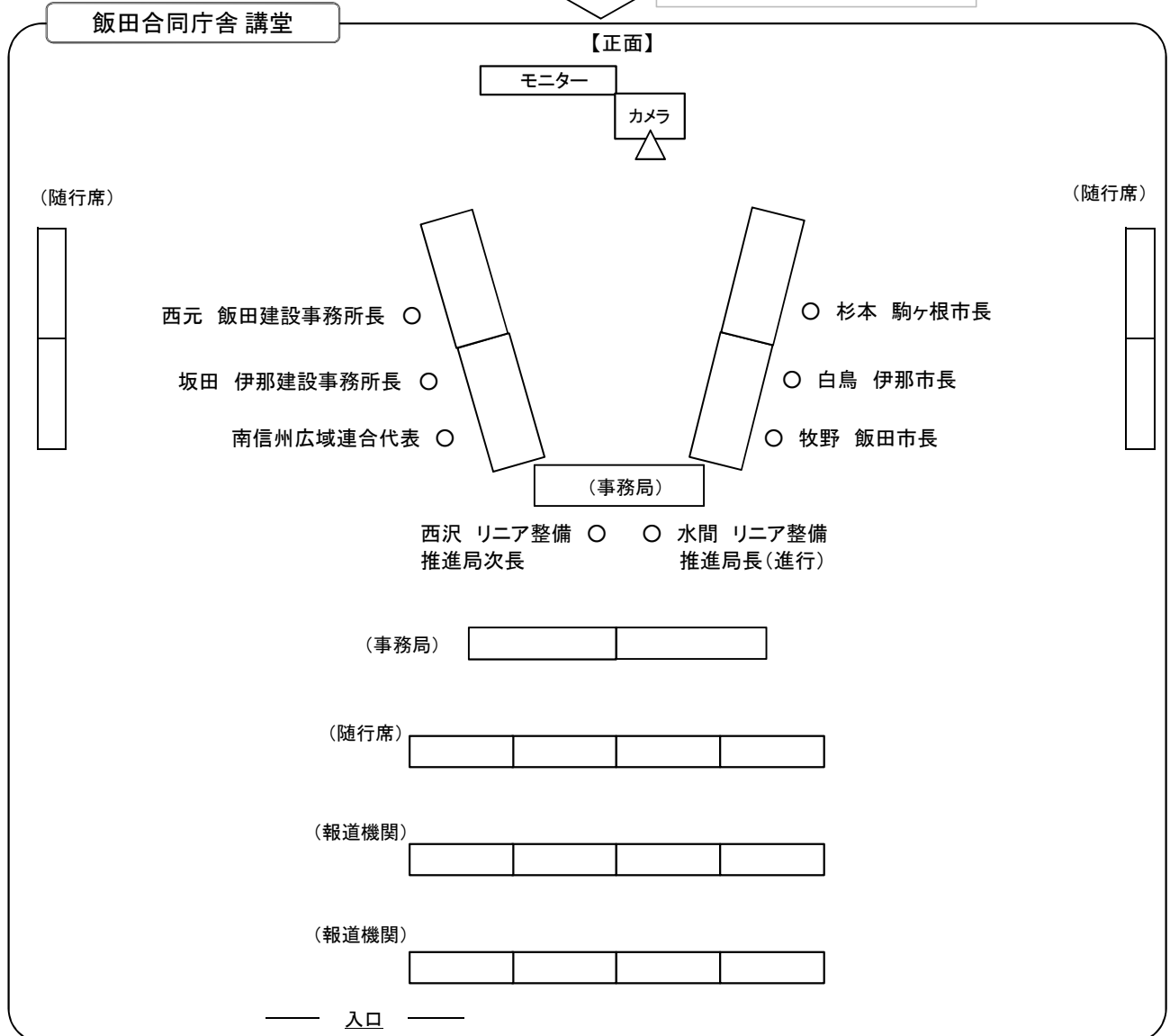
■観光分野アドバイザー

(一社)長野県観光機構理事長	野原 莞爾
----------------	-------

伊那谷自治体会議 配席図



・知事室と飯田合庁講堂をネット回線で結ぶWEB会議



リニア長野県駅の周辺整備について

飯田市リニア推進部

1 これまでの経過と今後の検討課題

駅周辺整備基本構想 (平成27年6月)

- 効率的でコンパクトな駅前広場
- パーク＆ライド駐車場を適切配置
- 地域住民の住みやすさに配慮した駅周辺整備
- 各地域拠点へのアクセス性向上
- J R 飯田線への乗換新駅検討

- 周辺のまちづくりと連携し、伊那谷らしさを感じられる景観形成
- 環境に配慮したまちづくり

- 6次産業化の推進、先端ビジネスや観光資源の発掘・強化
- 信州・伊那谷ブランドを発信するシティプロモーションの推進

- 地域のコミュニケーションの場となる交流施設の整備
- リニア駅周辺整備と連携・補完する都市づくりの推進

住民参画：アイデア募集 (平成28年4月～5月)

- ICTを活用した誘導・案内表示
- 環境に優しい車両のみが乗り入れ出来るように制限
- ラウンドアバウトの導入
- 駅前広場への立体進入
- ヘリポートの建設

- 自然を生かした駅前広場
- 緑化された平面駐車場
- 外観や内装を統一し調和を図る
- 観覧車・展望タワー等の眺望施設

- 観光案内所や市町村PR施設等のアンテナショップ
- 商業施設（駅ビル・土産物店・農産物直売所・ショッピングモール）
- 温泉や足湯

- 文化ホール、コンベンション施設
- サッカー場等のスポーツ施設
- 伝統芸能や舞台芸術等の体験、公演が出来る施設
- 農業体験施設

有識者
部会
の
提
案
も
踏
ま
え
て

検討会議4部会における今後の検討課題

トランジットハブ・ 道路ネットワーク 部 会

- 南北の交通広場の機能分担、施設配置
- 飯田線への乗換新駅設置など二次交通
- ユニバーサルデザイン、天候バリアフリー対応
- EVや水素自動車の公共交通導入や自動運転車乗り入れに関連する施設の整備

環境・景観部会

- 伊那谷らしさを感じられる空間整備
- 再生可能エネルギーの活用
- ゼロエミッション・低炭素化
- 展望台、見晴らし広場等の眺望施設
- グリーンインフラの導入

魅力発信部会

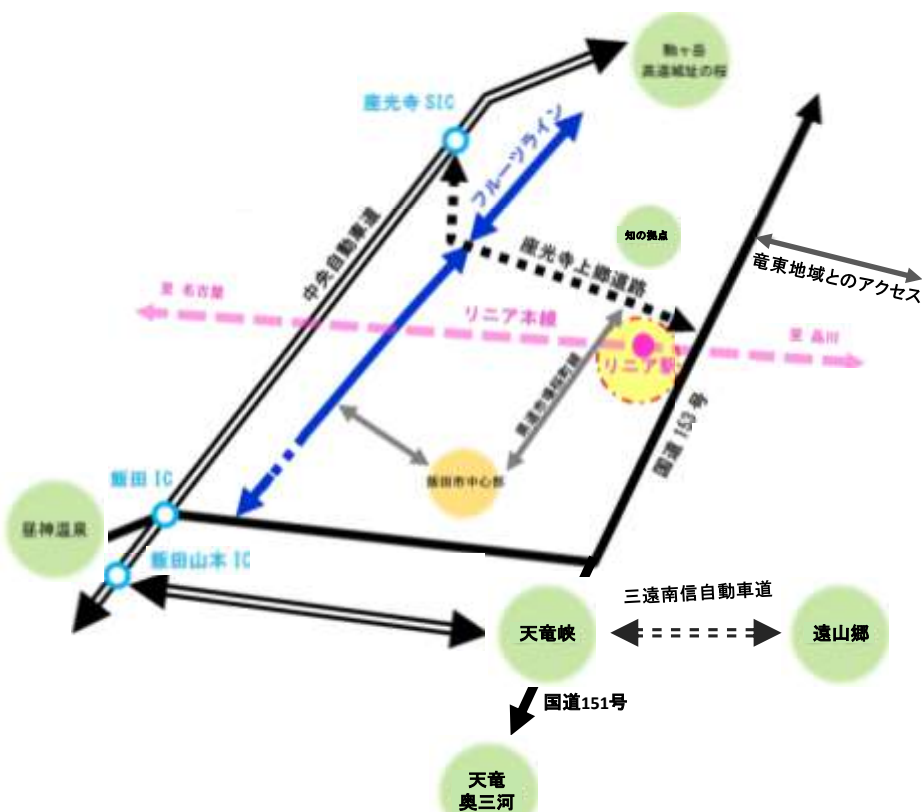
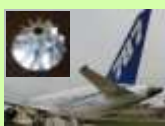
- 信州・伊那谷らしさを感じられる質の高い観光地づくり
- ホスピタリティの向上
- 伝統芸能・文化等の地域資源を活用した空間形成や修景の検討
- 施設外観や内装への地元産材の活用

交 流 人 口 拡 大 部 会

- 民間投資を誘発する事業手法の検討
- グランピング等、気軽にアウトドアを体験できる地域づくり
- 知縁的なネットワークを活用した地域産業の推進
- インバウンドの呼び込み

<知の拠点・産業振興>

- ◆ 旧飯田工業高校を利活用し、産業振興に寄与する「知の拠点」を整備
- ◆ 国やJAXAの研究開発施設や実証試験施設等の誘致
- ◆ 航空機システム分野の新たな拠点を創出し、産業の高度化、高付加価値化を実現
- ◆ 信州大学航空機システム共同研究講座の開設と運営
- ◆ 大学研究者のネットワークの拠点づくりと、大学等の教育研究機能の活用



<環境・エネルギー>

- ◆ 飯田ZEB／ZEHモデルの実現により、スマートシティの創出
- ◆ 太陽光、木質バイオマス、小水力発電等、再生可能エネルギー活用による低炭素化
- ◆ 電気自動車や水素自動車の公共交通システムへの導入



<ライフスタイル・定住>

- ◆ 大都市圏の居住者が、週末等を利用して農業を行ったり（クラインガルテン等）、余暇を過ごしたりする二地域居住の推進
- ◆ 伊那谷への移住希望者を取り込み、地域の若者定住を促進するため、産業振興や就農支援の充実、移住促進住宅等の整備



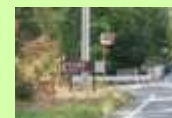
<観光・交流>

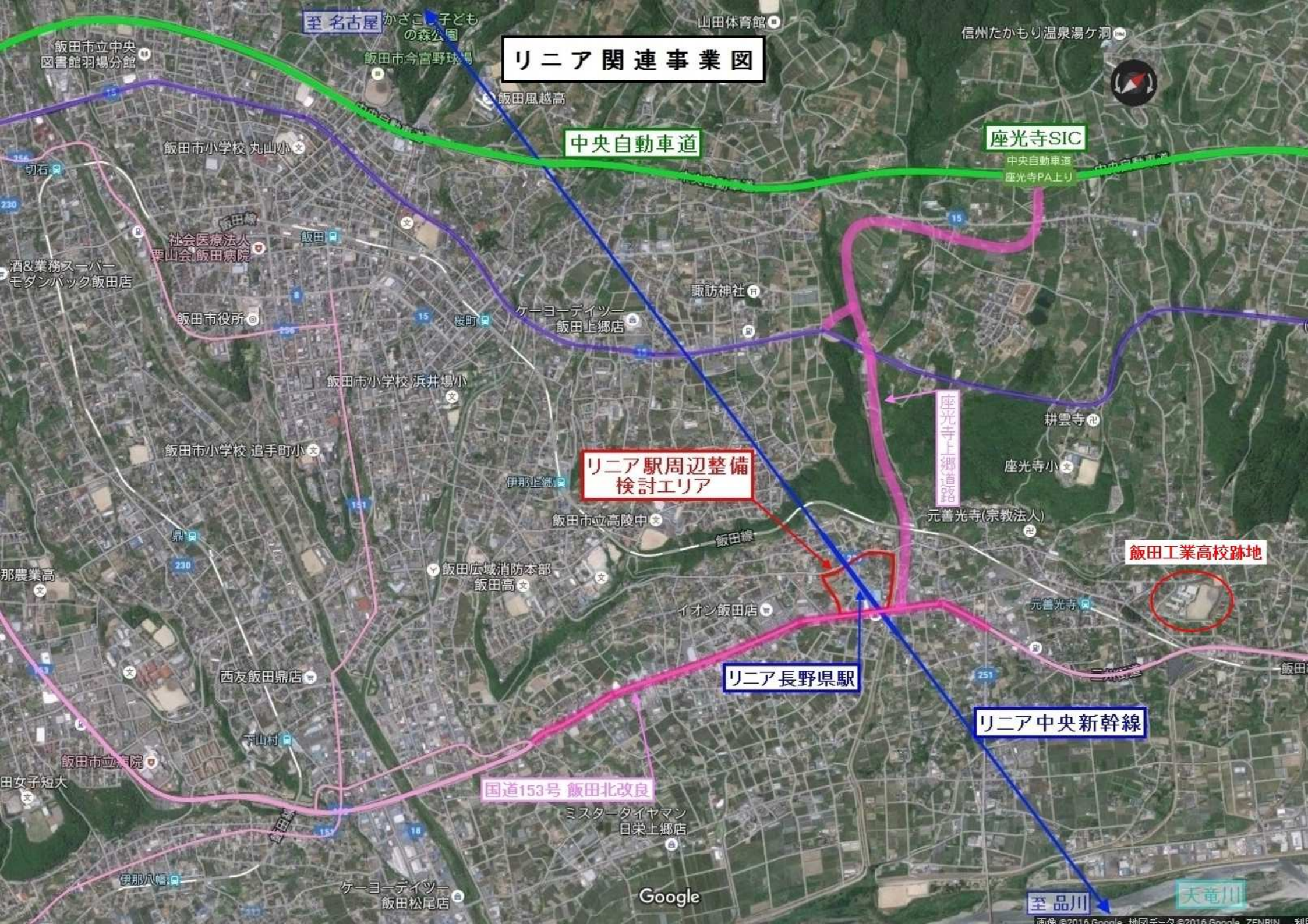
- ◆ 南・中央アルプスの山岳や、農村風景、各地の温泉など、信州ならではの自然や、健康長寿の地域特性を生かしたツーリズムの推進
- ◆ 国際会議や企業研修、イベント等（MICE）、競技大会の誘致やコンベンション・スポーツ施設等の検討
- ◆ 伊那谷の伝統文化を生かした観光地づくりや宿泊施設の魅力向上
- ◆ 多言語対応やICTの活用によるインバウンドの推進



<景観>

- ◆ リニア駅へ繋がる幹線道路沿線の看板意匠を統一し、広域的な調和のとれた景観形成
- ◆ 市街地や商店街等の修景を行い、信州の豊かな自然と歴史文化にふさわしいまちづくり
- ◆ 地元産材の活用による公共施設や住宅等の木造化や内装の木質化





リニア関連事業図

中央自動車道

座光寺SIC

中央自動車道
座光寺PA上り

リニア駅周辺整備
検討エリア

リニア長野県駅

リニア中央新幹線

国道153号 飯田北改良

飯田工業高校跡地

至品川

天竜川

Google

画像 ©2016 Google, 地図データ ©2016 Google, ZENRIN

伊那谷自治体会議有識者部会 発言要旨まとめ

- 開催日時 平成 28 年 7 月 22 日（金） 10:00～11:45
- 場 所 長野県東京事務所(県庁知事室を繋いだウェブ会議)
- 出 席 者
 - ・山田桂一郎氏、鈴木文彦氏、上原三知氏、中嶋聞多氏、信時正人氏
 - ※清水愼一氏、塚越寛氏は欠席
 - ・阿部知事、野原莞爾氏（自治体会議アドバイザー）

1. 広域観光

- 駅に降りるためには、「理由・目的・必然性」が求められ、さらに「質の高さ」が重要となる。
- 地域“らしさ”を形にするには、“ならでは”が必要。そこに質の高さが加わることで価値が生まれる。
- 伊那谷に暮らす住民が、自らの地域の良さについて認識を深め、借り物ではない良いと思われるところを生かしていくことが、「長野県ならでは」につながる。
- 「健康長寿」は長野県の強みであり、インバウンドの目玉になり得る。富裕層が最も価値を置く。
⇒ ヘルスツーリズムの構築
※国際的医療評価機関(JCI)による認証を受けた医療機関の整備
- 「マーケティング」の視点が重要。市場・環境調査に基づく商品化をすること。
- 収益がもたらされる地域づくりを進めるため、「信州ならでは」を追求し、魅力ある観光地づくりを進める。
- 既存の観光商品の棚卸しと地域住民を巻き込む仕組みづくりにより、観光の質の向上を図る。
- リニア駅と松本空港の連携を含め、ヘリコプターの活用を考えてはどうか。
⇒ ヘリを観光に生かすためには、ヘリを使ってでも行きたくなる環境と十分な観光商品が必須。
※ただし、他地域には無い選ばれる理由や、その地へ来る目的がないと難しい。
- 宿泊施設の誘致についてもあわせて考えていく。
- 観光商品に携わる者の人材育成が非常に重要となる。また、人材育成のための地域は拠点となり、居住者が生まれる。

2. 二次交通

- 交通は、その特性を考慮したネットワークになっていないと意味が無い。
- 主要な交通形態は、リニア開業時点では現在と大きくは変わらない。
- 公共交通機関における人材不足が深刻であるため、そのための対応を今からしていく必要がある。
- 自動運転については、導入する体系を整理した上で、特区指定などのあり方を検討。

3. まちづくり

- 都市圏と地方ではなく、沿線県連携など地方同士の横のつながりを重視し、地方間で人の流れを生み出す仕組みが大切。
⇒ 【例】「中央文化芸術コリドー」構想
※「芸術文化」をベースとした知のつながりを作る。
- クリエイティブ人材の定住につながる取組を進める。
⇒ 定住につなげるためには「お金を稼ぐ仕組み」が求められる。
さらに、地域の受入、寛容性も課題。
- 航空宇宙産業について、産業面から見た都市戦略が必要（デベロッパーではなくメーカーの生産に対する考え方、世界を相手にする中でどういう戦略でこのリニアを使っていくかを把握する。）
- まちづくりに当たっては、隣県及びリニア沿線県による連携し、一体的に考えた方が良い点もある。
互いの違いを認識し、それぞれが特徴を主張しながらも調整していくことが求められる。
- インフラ整備は、住民の要望をよく聞き、個別に道路や住宅を考えるのではなく、一体的な整備を進めること。
- リニア駅利用者と住民とのお互いのメリットにつながる整備が必要。特に、地域住民が歓迎しない駅周辺整備では利用者も敬遠してしまい、雰囲気の良いまちづくりとなってしまう。そのため定住者への配慮も求められる。
- 景観はポイントではなく、シークエンス（連続景、連続体験）としてどのように捉えられるかが重要。よって、悪い評価となる場所をできるだけ減らしコントロールしていき、伊那谷全体のイメージを高めていくこと。また、看板やサインは伊那谷全体で検討していった方がよい。

【別表】

リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議
有識者部会 委員

氏 名	主な肩書き	専門分野
しみず しんいち 清水 慎一 氏	長野県観光戦略アドバイザー	観光
つかこし ひろし 塚越 寛 氏	伊那食品工業(株)取締役会長	観光
やまだ けいいちろう 山田 桂一郎 氏	JTIC.SWISS 代表	観光
すずき ふみひこ 鈴木 文彦 氏	交通ジャーナリスト	二次交通
うえはら み さと 上原 三知 氏	信州大学農学部准教授	まちづくり
なかじま もん た 中嶋 聞多 氏	(一財)地域活性機構理事長	まちづくり
のぶとき ま さと 信時 正人 氏	(株)エックス都市研究所理事	まちづくり

(分野別 50 音順)

テーマ	論点	
	問題提起(発言要旨)	検討・確認事項
総論	○リニアによるスーパーメガリージョン形成の意義 ・7,000万人の三大都市圏が1時間で繋がり一体化 ・国土の形成、海外とのつながり、対流(人的・物的)の創出 ・異次元の高齢化を迎える中での役割 ○中間駅インパクトの発揮 ・アジアのダイナミズムを視界に入れて太平洋側と日本海側を戦略的に繋ぐことが重要 ・「伊那谷(信州)ならではの」に「質の高さ」を加えたキラコンテンツを目指す ・整備効果を高めるためのインフラ整備(リニア駅周辺整備、アクセス道路) ○広域エリア(岐阜～長野～山梨)での産業連携・文化連携の推進 ・観光、まちづくりなど各分野における広域連携の検討 (県リニア活用基本構想における「三駅活用交流圏構想」の推進)	●リニア中央新幹線の伊那谷にとっての意義 リニアによる交流人口の拡大がもたらす多様なメリットを最大限に活かす ●地域振興 ・リニアを活かした産業振興 ・災害に強い地域づくり ・信州暮らしの魅力向上 ・広域観光の推進 リニアバレー構想 ●リニア駅及びリニア駅周辺整備 ① リニア長野県駅の位置付けを明確にする 日本全体の「交流」「移動」「対流」を促進する新たな拠点 ・リニアと三遠南信自動車道による相乗効果の発現 ・交流人口や移住者・二地域居住者の増加による地域の活性化 ※地域振興(経済・文化の活性化)には、外部との交流や流入が必要 ② 駅周辺整備コンセプトを共有する ・導入する機能・設備の方向性と検討状況の共有 ・広域での検討を要する事項の認識共有 ←→ 連携・調整 リニア駅周辺整備基本構想及び計画 ※飯田市にて検討中 ●県境を越えた連携の推進 ・伝統及び芸術文化、山岳観光、産業面など共通したテーマで連携したまちづくりの推進

■リニアバレー構想上の整理

I 国際空港へ1時間でアクセスするグローバル活動拠点～世界とつながる～

テーマ	論点	
	問題提起(発言要旨)	検討・確認事項
リニア産業を活性化させた	○航空宇宙産業における戦略の必要性 ・メーカーの生産に対する考え方、世界を対象にどういった戦略でリニアを使っていくかの把握 ○リニア時代に向けた新たな技術の導入検討 ・移動手段への新技術の導入について検討	●国家戦略特区(アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区)と連携した産業振興推進 ・学術・研究機関が立地する知の集積地の確立など ●近未来技術、制度等の各分野への導入 ・二次交通への自動運転導入など新たな技術の活用 ・環境配慮型(低炭素)エネルギーの活用

II 巨大災害時のバックアップと食料・エネルギーの新しい供給拠点～日本を支える～

災害に強い地域づくり	【事務局による整理】 ○都市部の災害時のバックアップ拠点としてのまちづくり ・研究機関や本社などの機能移転を促す取組 ・災害に強い都市機能	【事務局による整理】 ●地域防災力の向上 ・災害体制の強化(発災時の医療支援拠点、災害活動拠点、緊急輸送路等のインフラ整備) ●食料・エネルギーの新しい供給拠点 ・伊那谷の農林産物や食文化のブランド化、付加価値の高いアグリビジネスの構築 ・森林資源の活用
------------	--	---

III 高度な都市空間と大自然とが近接した「対流促進圏域」～ここで豊かに暮らす～

信州暮らしの魅力向上	○移住定住・二地域居住の推進 ・芸術や産業などのクリエイティブ人材の移住に注目する ・価値観の転換「ヘッドクォーターは東京」→「クリエイティブな仕事をするのは地方」 ・定住につなげるための「稼ぐ仕組み」が必要 ・地域の受入態勢を整えることが必要 ○地方間での交流創出 ・地方同士の横のつながりを重視し、地方間での人の流れを生み出す ○魅力ある自然環境の保全と景観の形成 ・伊那谷の景観を保全するための取組の推進	●移住定住・二地域居住推進のための具体施策の展開 ・クリエイティブ人材をターゲットとした移住定住策の検討 ・観光分野等の人材育成と教育機関の誘致 ・多世代の居住、移住策の推進(日本版CCRC) ・居住ニーズの把握とそれに応じた圏域内ゾーニングの検討 ●地方間での人的交流施策、連携施策のための取組の検討 ・隣県(岐阜県、山梨県)との連携した取組【再掲】 ●伊那谷全体での景観形成の検討 ・広域的な看板デザイン等のルール化、伊那谷を一体としてとらえての景観のあり方の検討
------------	--	---

IV 世界から人を呼び込む感動フィールド～ここでふれあう～

テーマ	論点	
	問題提起(発言要旨)	検討・確認事項
広域観光の推進	○伊那谷を訪れるための「理由・目的・必然性」の創出 ・地域らしさ(ならでは)と質の高さの追求 ⇒ キラーコンテンツに求められる要素 ・「マーケティング」の視点が重要 ・強み(健康長寿)を活かした施策展開 ・広域で構築するツーリズム ・収益がもたらされる地域づくり ・ターゲットとして望ましいのはハイエンドのリピーター(インバウンド含む)	●将来予想を踏まえた戦略的マーケティングによる市場環境調査の実施 ●「観光の産業化」の推進 ・伊那谷ならではの食や農、自然環境を取入れたツーリズムの構築 ⇒ インバウンドの目玉になり、富裕層が最も価値を置く「健康長寿」に注目したヘルスツーリズム - 地域に根ざした伝統、芸術文化に注目したツーリズム ・山岳観光地づくりと広域観光ルートの形成 ・観光開発における規制緩和の検討
	○訪問者を迎えるための環境整備 ・施設を含めた環境整備、人材育成など ・芸術、文化力を上げていく必要がある ・中間駅インパクトを活かすには、新しい技術要素を視界に入れた先進的な試みが必要	●訪問・宿泊環境の整備に向けた検討 ・ハイエンドのリピーターを惹きつける宿泊施設誘致 ・移動手段の検討(ヘリの活用など) ・外国人対応(案内体制・設備、ICT基盤整備等)、国際交流施策の推進 ・観光分野等の人材育成と教育機関の誘致【再掲】
	○リニア長野県駅からの二次交通の確保・整備 ・JR飯田線に関する検討 ・将来における公共交通機関の人材確保・育成 ・リニア関連道路等の整備促進	●二次交通体系整備に向けた検討 ・JR飯田線乗換新駅設置に向けた検討 ・JR飯田線の活性化、利用拡大に向けた取組みのさらなる推進 ・次世代の交通手段導入に向けた検討(自動運転・ライドシェア等／特区指定と併せて検討) ・二次交通の担い手確保・育成に向けた検討

プロジェクトの構成(案)

	①未来を先取りしたリニア時代のまちづくり	②伊那谷の定住・交流人口の増加	③リニアを活かした産業振興
具体の取組事項	【プロジェクトの目的】 ➢ 民間投資を誘発するまちづくり ➢ 伊那谷で豊かに暮らすための環境づくり 【具体の取組事項】 ■未来技術の導入とスマートシティの実現 ・自動運転やライドシェアなど次世代の交通手段に関する研究 ・低炭素エネルギーによる環境都市づくり(ゼロエネルギービル等) ■都市の拠点機能の向上 ・MICE、滞在、文化交流等の都市活動を支える機能を強化 ■グリーンインフラの展開 ・伊那谷を一体的にとらえ、自然環境に配慮した広域的な景観形成への取組(統一案内看板の導入検討などを含む) ■飯田線乗換新駅設置 ・設置に向けての検討(構造、設置費用) ・リニア長野県駅とのアクセスの検討 ・J R 東海への働きかけに関する調整	【プロジェクトの目的】 ➢ 定住・交流人口の増加 ➢ 観光の産業化とキラーコンテンツの創出 【具体の取組事項】 ■戦略的な移住定住・二地域居住策の展開 ・クリエイティブ人材(IT、アート、起業家など)の誘致 ・受入環境(インフラ：居住、教育、医療等)整備と効果的なプロモーション展開 ■観光におけるキラーコンテンツの形成 ・マーケティングに基づく観光開発(伊那谷を訪れる理由・目的・必然性の追求) ・伊那谷ならではの食や農、自然、健康長寿をテーマとした体験型観光ツーリズム ＜体験型観光ツーリズム例＞ ○ヘルスツーリズム インバウンドの目玉となり富裕層が最も価値を置く健康長寿がテーマ 食や農(ジビエ・伝統野菜等)、自然との組み合わせも検討 アンチエイジングの滞在型セラピーなど訴求力のある観光商品の開発 ○伝統文化に触れるツーリズム 伊那谷の伝統文化、歴史を体感することがテーマ ・アルプスに着目した山岳観光地づくり、広域観光ルート形成 ・山岳観光開発における規制緩和、ヘリコプターの活用 ・ハイエンドのリピーター対象としたホテル、旅館、オーベルジュ等の誘致 ・インバウンド対応(観光案内、公衆無線LAN、外国人受入に係る認証制度の医療機関への導入) ・観光に携わる人材の育成、関係機関などの誘致	【プロジェクトの目的】 ➢ リニア開業を見据えた次世代産業創出 【具体の取組事項】 ■伊那谷の強みを活かした産業振興 ・航空宇宙産業分野と連携した産業振興 ・農畜産業の活性化(アグリイノベーション)策の推進 ・農産物の新たなブランド化と付加価値の高いアグリビジネス推進 ・豊かな森林資源の活用 ■グローバル活動拠点を目指した取組 ・国際空港との近接性を活かし、外資系企業やグローバル活動圏で活動する企業の本社、研究機能など中枢機能の立地促進
体制	・国、県、市町村(企画、都市計画、交通政策担当) ・関係団体(大学、景観検討団体) ・民間事業者(デベロッパー等) ・有識者	・国、県、市町村(地域振興、観光、環境担当) ・関係団体(観光協会、商工団体) ・民間事業者(DMO、観光事業者) ・有識者	・国、県、市町村(商工、産業担当) ・関係団体(大学、航空関係団体) ・民間事業者 ・有識者

県境を越えた連携(岐阜～長野～山梨)

＜リニア中央コリドーの形成＞

⇒ 共通テーマについて連携

【想定される共通テーマ】

山岳観光、芸術文化、知の連携、大都市圏における巨大災害時のバックアップ拠点 など

長野県リニア活用基本構想 & リニアバレー構想

～ リニア中央新幹線が創る信州の未来！ ～

長野県リニア活用基本構想 ～地域特性に応じて3つの交流圏を設定～

交 流 圏	地 域
伊 那 谷 交 流 圏	上伊那・飯伊地域 (リニアを活かし、大都市・世界とつながる)
リニア3駅活用交流圏	諏訪・木曽・松本地域及び近隣地域 (鉄道・道路・空港による多様な移動手段を選択)
本州中央部広域交流圏	長野県全域 (2つの新幹線、道路網を基軸に本州中央部の流動を創出)

リニアバレー構想 ～伊那谷がめざす姿～

- I 国際空港へ1時間でアクセスするグローバル活動拠点
～世界とつながる～
- II 巨大災害時のバックアップと食料・エネルギーの新しい供給拠点
～日本を支える～
- III 高度な都市空間と大自然とが近接した「対流促進圏域」
～ここで豊かに暮らす～
- IV 世界から人を呼び込む感動フィールド
～ここでふれあう～

めざす姿を実現するための取組

I リニアを活かした産業振興

伊那谷交流圏

- 【グローバル活動拠点】
- 外資系企業等の中枢（本社・研究開発等）機能の立地
 - 学術・研究機関が立地する“知”の集積地の確立
 - 航空宇宙産業クラスターの形成
 - 健康・医療・介護など健康長寿を支える産業集積



旧飯田工業高校

II 災害に強い地域づくり

伊那谷交流圏

- 【災害時のバックアップ・食料等の供給拠点】
- 企業の本社機能など都市機能の移転促進、居住地等整備
 - 後方医療支援・災害活動拠点としての機能整備
 - 農産物ブランド化、付加価値の高いアグリビジネス展開
 - 木材の安定供給体制の構築、木質バイオマスの推進

III 信州暮らしの魅力向上

伊那谷交流圏

- 【移住定住・二地域居住の促進】
- 通勤・二地域居住ゾーンなど圏域内のゾーニングの検討
 - 分譲地の整備、二地域居住に必要な環境整備・情報提供
 - エコロジーに着目した生活スタイルの提案

- 【豊かに暮らすための地域づくり】
- 伝統文化の保存継承による郷土意識の醸成と担い手育成
 - 郷土愛の醸成による新たな文化の創造
 - 若者を惹きつける魅力ある地域づくり



千畳敷カール

- 【魅力ある自然環境の保全と景観の形成】
- 南・中央アルプスなど美しく雄大な自然環境の保全
 - 看板デザインのルール化など調和のとれた景観形成

IV 広域観光の推進

伊那谷交流圏

- 【広域観光ルートづくり】
- 協議会を設置し、駅を拠点とした観光ルートづくり
 - 交通事業者と連携した二次交通の確保・整備

- 【体験型観光の推進】
- 多様な体験ツーリズムの確立、ヘルスツーリズムの推進
 - フィールドスタディの誘致
 - 担い手の育成、効果的な情報発信



伊那市高遠地区

- 【外国人旅行者の誘客】
- 外国人旅行者向け観光ルートの形成、海外プロモーションの展開、観光情報の一元化・広域的連携

- 【豊かな自然と実績を活かした国際交流】
- グローバル人材の育成、自然や伝統芸能を活かした国際交流の推進

良好なアクセスの確保

伊那谷交流圏

- 高速道路へのアクセス性向上
- 高速道路と各地域の連携強化
- 駅周辺の広場・道路の整備、公共交通の路線再構築
- 乗換新駅設置など飯田線との利便性確保、飯田線の活性化

魅力ある駅空間の創造

伊那谷交流圏

- 駅舎デザイン、内装への県産材利用、特色ある植栽
- 駅構内への眺望施設整備、総合案内・物販施設等の設置
- 乗換えが円滑にできる駅前広場や駅周辺駐車場の整備
- 地域住民も利用できる賑わい施設の設置

山梨・岐阜県等との交流の拡大

3駅活用交流圏
本州中央部交流圏

- JR中央本線の利便性の向上、高速化・快適性の確保
- 山梨県駅と諏訪・松本地域を結ぶ高速バス路線の開設
- リニア利用者拡大に向けた連携、本州中央部広域交流圏構想に向けた検討会議の開催

リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議（WEB会議）

～ （一財）日本総合研究所 理事長 寺島実郎 氏 発言要旨 ～

日時：H28年5月18日（水）14:30～

場所：名古屋 JR セントラルタワー39階

【中間駅インパクトと「対流」の重要性】

- リニアは、東京、名古屋、大阪の 7000 万人の人口ゾーンがやがて 1 時間で繋がる「スーパーメガリージョン」を睨んだ国土の大きな構想。
- 11 年後に東京～名古屋が 40 分で繋がることよりも、「中間駅」によるインパクトが非常に重要。
- 人口減を移動と交流により補っていく戦略的視界が重要になってくるが、アジアのダイナミズムを視界に入れた「対流」も重要。
- 物流、人流は日本海側に流れ、日本海と太平洋側を結ぶ縦軸の重要性が高まる。

【異次元の高齢化】

- 日本の人口は 2048 年頃には 1 億人を割るが、人口が減るだけでなく、1 億人を超えたときの 65 歳以上人口が 700 万人だった頃と、1 億人を割るときの 65 歳以上人口が 4000 万人とでは、まるで次元が違うというのがポイント。
- 首都圏と長野県の高齢化の意味は異なる。一次産業が至近距離にある長野県の優位性を活かした参画のしくみや、意味ある都会との交流が考えられる。

【二次交通に関する柔軟い発想の重要性】

- 二次交通については、よりきめ細かい、必要な時に必要な形で利用できる「柔軟い仕組み」が必要。
- 海外では「ウーバー」というビジネスモデルがあるが、自動車社会は「所有」から「共有」へと変革する動きになっている。
- 高齢者の足回り確保にもつながり、自動車を所有していない人でも、自動車社会をより効率的に利用できる仕組みが求められる。

【観光を「産業化」する】

- サービス産業の中核産業として、観光を本当の意味での「産業化」する必要がある。
- インバウンド人口を増やしてチープなインバウンドを取り込むのではなく、ハイエンドのリピーターを惹きつけることが重要。
- 観光を産業化するにあたり壁になるのが「宿泊施設」。将来、中部セントレア空港や羽田・成田空港から、この地域に人の流れをつくっていくためには、世界レベルのホテルや宿泊施設が必要と考える。

【「食」＋「農」＋「景勝地」＋「健康」でキラコンテンツを作り出す】

- 長野県全体を見た、広域的視点の中でどういうツーリズムを構想するのが、大変重要。
- フードツーリズムとアグリツーリズムと景勝地をリンクさせて、選定した地域にインセンティブを与える取組みをしてはどうか。
- リニアバレー構想に記載しているヘルスツーリズムに、食材とまちづくりをリンクさせたようなひねりがいる。これが長野にとって非常に重要になってくる。
- 長野の優位性を活かす意味でも、「食」と「農」と「観光」を結びつける必要がある。
- 高齢社会が迫ってきていることを踏まえると、さらに「健康」を加え、ハイエンドの観光客が一週間くらいアンチエイジングの滞在型セラピー施設などに滞在する取組が考えられる。幸いなことに長野は温泉も各地にあるので、そういう類の「キラコンテンツ」を作り出す必要がある。

【芸術・文化力を上げる】

- アンチエイジングの滞在型の施設において、「ライブビューイング」の設備を整備し、そこにやってきた人たちが、世界中で繰り広げられている有名なエンターテイナーのライブ中継を鑑賞する。毎晩、何かのライブがやっている状況を作り出す。
- 地方にエンターテイナーを連れてくるのは大変なコストを要するが、ライブビューイングの場合、録画ではないため、ほぼライブと同じような臨場感を味わえるという参画感のある音楽コンテンツとなる。
- 観光については、新しい技術要素を視界にいれた先端的な試みが幾つかは必要になってくる。旧態依然としたホテルビジネスや、温泉観光ビジネスのみを視界に入れるだけでは、おそらくは中間駅インパクトを活かすような展開にはならない。

【構想をプロジェクト化へ】

- これからはより具体的な構想をプロジェクト化することが重要。
- 地域振興策や観光戦略の「構想」で終わらせることなく、具体的な事業計画の「プロジェクト化」が重要である。